被災地を訪れて

愛南町長 清水雅文

去る3月11日の東日本大震災から、やがて8か月が経ようとしています。一日も速い被災地の復興を願うばかりです。

私も行政を預かる地方自治体の首長として8月30日から3日間、さらに9月21日から3日間、被災地の石巻市・南三陸町・気仙沼市・陸前高田市など宮城・岩手両県を中心に、現地の状況を目の当たりに見て参りました。ひと言で申しますと、「呆然と立ち尽くして言葉もない」といった状況です。

高速道路を使って北へ向かいましたが、少し走ると右前方の田んぼの中に自動車や廃材、所によっては船も目に飛び込んできました。この高速道路が防波堤となったため、左側の集落はほとんど被害もなく、所々の家の棟瓦がはがれた程度であり、高台にある木造の民家も倒壊したものは一軒もなく、津波が来なければ、地震の揺れだけでは家屋の倒壊はなかったものと思われます。高速道路の右と左で明暗がくっきり分かれていますが、河川があるところの両岸の集落は、かなり上流まで被災していました。

海岸線の集落は、町全体が地盤沈下をしており、強固な護岸や防潮堤でさえ、跡形もなくズタズタに壊れています。町全体で木造の民家は跡形もなく、残っているのは鉄骨やコンクリート造りの建物の外形だけであり、改めて自然の驚異をまざまざと見せつけられた思いです。

千年に一度の想定外の震災と言われていますが、東海・東南海・南海、そして日向灘沖地震の4連動となりますと、東日本大震災と同等もしくはそれ以上

になるとも言われています。これだけの規模の地震・津波であれば、人間の力では到底防ぐことはできません。ですが、逃げることはできます。

被災地の方々には、本当にお気の毒ですが、私たちは今回の震災を「わがこと」として受け止め、将来必ず起こるであろう大地震に備え、限界はありますができうる限りの対策をしなければならないと思っています。

「強い揺れが長く続いたら必ず津波が来る」「まずは高台に逃げる。そして命だけは守る」を教訓として、日ごろから災害に対する町民一人ひとりの意識を高めていきたいと思っています。そして、建物の耐震化の促進、多重防御のまちづくり、地域防災力の向上、災害発生時における行政機能の維持・発揮など「災害に強いまちづくり」を進めてまいりますので、町民の皆様のご支援とご協力をよろしくお願いします。

10/6～7

災害に強いまちづくり検討会

御荘文化センターで「災害に強いまちづくり検討会」が行われ、四国４県の行政・大学などから防災関係者約５０名が参加して「災害に強いまちづくりガイドライン」などの意見交換を行いました。このほか愛南町の取組の報告や、由良半島地区、岩水地区の東海小学校や旧深浦小学校に移転建築中の城辺幼稚園と養護老人ホーム「南楽荘」の建設現場などの視察も行われました。